

課 題	低コスト作業道作設技術の確立	開発期間	H14 ～ H18
開発箇所	米代東部森林管理署 2271は外	担当 部署	森林施業部会 販 売部会 森林整備部会 指導普及部会 センター部会
開発目的 (数値目標)	林道等林内路網は、効率的な森林施業を実施していく上で必要不可欠な施設である。特に作業道は、高性能林業機械等の導入と一体的に機能し、森林施業（作業）の仕組みに直接組み込まれる性格を有することから、如何に低コストで整備し、維持・管理出来るかが重要な課題となっている。 このため、林道から分岐し高性能林業機械等の駆使を前提にした低規格・低コストの作業道の開設及びその維持・管理技術についての調査・研究を行う。 （ 開設コスト 2,000円／m ）		
実施経過	1 平成14年度 - 基本計画の策定 - 現地踏査及び測量 - 自力施工（543m） - 木製工作物制作 2 平成15年度 - 現地踏査及び測量 - 自力施工（868m） - 木製工作物制作 3 平成16年度 - 現地踏査 - 自力施工（940m） 4 平成17年度 - 現地踏査 - 自力施工（526m）		
開発成果等	1 平成14年度に自力施工を行った543mのとりまとめでは、 3人1組での1日当たりの作設距離は、30.17m 開設経費（機械損料を除く）は、1,705円／m ※参考として、0.2m3のバックホーの機械損料は、6,890円／供用日 228.37円／mである。 2 平成15年度に自力施工（868m）を行った1,411mのとりまとめでは、 3人1組で 1日当たりの作設距離は、30.67m 開設経費（機械損料を除く）は、2,068円／m ※軟弱路体対策（敷砂利投入等）により開設経費がアップしている。 3 開設後、降雨・積雪等による損壊等は起きていない。 4 期待される成果 本課題の1路線は「旧人工林施業モデル団地内」の味噌内流域と平滝流域間を結ぶ作業道の作設を実施しており、平成17年度に連結される予定となっている。 このことにより、森林整備等にかかる効率化が大幅に改善されるものと思われる。 5 研究発表成果 ◎平成14年度森林・林業技術交流発表会にて「低コスト作業道を活用した列状間伐の取組」を発表 ◎平成15年度国有林野業務研究発表会にて「低コスト作業道を活用した列状間伐の取組」を発表 ◎平成17年度森林・林業技術交流発表会にて「低コスト作業道作設技術の確立について」を発表 6 普及啓発 平成14年技術交流会の実施 本課題に関する技術交流会を当局管内の職員をはじめ、県市町村担当者、森林組合関係者、民間林業事業体及び報道機関を一堂に集め、現地において開催。（55名参加）		